

江戸時代の対外政策はどのように変化していったのか。

戦国時代
安土桃山時代

南蛮貿易開始
明や朝鮮との対立
経由地としての東南アジア

江戸時代

南蛮貿易の推進
明や朝鮮との国交回復
東南アジアとの貿易を奨励

朱印船貿易

幕府によって渡航の許可証（朱印状）を発行
朱印船の保護を東南アジア諸国に依頼

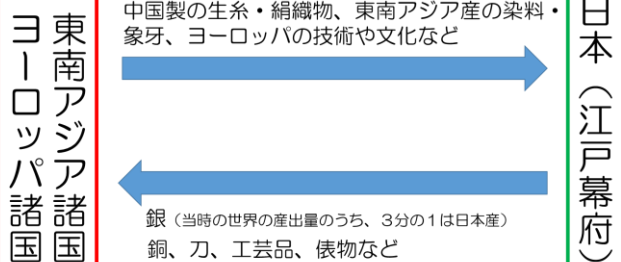
多くの日本人が東南アジアに移住
日本町（日本人町）ができる

ヨーロッパとの貿易

南蛮貿易
主にポルトガルとスペインとの貿易

長崎の平戸に商館を設ける
新たに、オランダとイギリスとの貿易を開始

江戸時代初期の貿易



禁教と貿易統制

貿易の利益を得たい
キリスト教を黙認

キリスト教の教えは、幕府の考えに反しているなあ

身分統制に都合が悪いなあ



- 1613年 全国にキリスト教禁止令
- 1616年 ヨーロッパ船の入港を長崎・平戸に限定
- 1635年 日本人の海外渡航・帰国の禁止
- 1637年 島原・天草一揆
キリスト教徒の迫害、重い年貢の取り立て
↳ 天草四郎を大将に一揆を起こす
- 1639年 ポルトガル船の来航禁止
- 1641年 オランダ商館を出島に移す

「鎖国」体制へ

※中国船とオランダ船のみ貿易許可

- 貿易の利益に注目した幕府は、ヨーロッパや東南アジア諸国との貿易を進めていった。
- キリスト教の教えが幕府の考えと反することから、次第に禁教と貿易統制を進めていき、「鎖国」体制ができあがった。